



北海道本別高等学校 学校通信

陽だまり

令和5年度 第5号

令和5年7月24日発行

北海道本別高等学校

電話：0156-22-2052

文責：校長（五條政人）

夏休みだから、休む、やってみる、鍛える、広げる

小学生のときから、夏休みが楽しみで仕方がないタイプでした。学校に来なくてもいいという解放感がたまらず、今日も明日も明後日も、好きなことを一日中していただける日が続くと思っていました。夏休みを自由きままに過ごすために、今年こそは宿題を早く終わらせると堅く心に誓うのに、夏休みの終盤になってから手つかずの宿題に苦しむというパターンが、恥ずかしながら中3の夏まで続きました。

そんな僕が偉そうなことを言っても説得力がありませんが、やっぱり夏休みは有意義に過ごしてほしいと思っています。高校生の夏休みだからこそできることに挑戦し、自分の将来の可能性を広げ、自分に対する自信を深める夏にしてほしい。高校生の夏は、とても貴重です。



自分の力を社会で最大限に生かすために

皆さんが多様な職業や学びの実際に触れることで、進路にかかる視野を広げ、進路実現に向けた意識を高めることを目的として、7月14日に「進路クエスト」が実施されました。

午前中は、希望する3つの体験授業を受け、午後は、上級学校と企業の合同説明会に参加。紙の資料だけでは分からない企業や学校の中身を感じ取ることができたのではないのでしょうか。

10～20年後、皆さんは社会の土台を支える重要なポジションに付いているはず。その前に何を学び、どのようなスキルを身に付け、どういう仕事に就くか。未来を見据え、なりたい自分を意識しましょう。



薬物は人を3回殺すと言われていました

今週18日には、皆さんが違法薬物に一切関わらないことを願い、薬物乱用防止講話を行いました。

薬物乱用により、最初は頭を殺されます。薬物のことしか考えられない脳になります。次に心が殺されます。薬物を手に入れるために平気で嘘をつき、愛する人を裏切ります。最後に、身体を殺されます。家族、友だち、恋人、二度と誰とも会うことができません。

そんな悲劇をなくすために、そんな悲劇に巻き込まれないために、私たちは薬物に関わらない強い意志を持ち続けなければなりません。自分と大切な人を守るために。

きっと、命は自分一人だけのものじゃない

2年生は19日に、1年生は20日に「性の講話」がありました。

妻が初めて身ごもったとき、長女が生を受けたとき、初めて我が子を抱いたとき、その娘が子を授かったとき、孫が生まれて命の尊さが改めて身に沁みるとき・・・すべてが昨日のこのように思い出されます。父と母が僕をどれくらい愛したか、祖父母がどれくらい僕を可愛がったか、我が子を愛し、孫が愛しい今だからこそ分かります。命はたくさんの愛に守られ、その尊さが永遠に引き継がれていくもの。皆さんはどう思いますか？

